

就職活動応援特集

上下水道、そして水に関する書籍が年間を通じて多数発行されている。それは読み物だけではなく実務書まで多岐にわたっており、水の世界の幅広さや奥深さを改めて知る機会ともなっている。水の業界を目指す就活生にとって、知識や教養、実学の共有は重要なファクターとなる。就活に向けた知見の習得の参考となるよう、本紙記者の視点で水に関する書籍を数点紹介する。



水がなくなる日
橋本 淳司 著
本書では、水ジャーナリストである著者が、世界や日本の水事情を紹介。世界の水と衛生事情や水資源をめぐる状況、上下水道に関する美意識のほか、食べ物・製品に関わる水の流れや気候変動と災害対策などについて幅広く記載されている。人口増加や産業での水使用量増加、気候変動による水不足、水汚染深刻化の懸念や、日々の生活や経済活動の中でどれほど多くの水が使用されているかなどが示され、本書のタイトルでもある「水がなくなる日」が現実味を帯びて感じられる。
記載は多岐にわたるが注目されるのは、やはり例え、中国のメコン川でのダム建設が流域の国々に大きな影響を与えている。また、日本が輸入する多くの食べ物や製品には水の生産過程で使われた水は1年間でお風呂500回分にもなるという驚異的な量を消費している。この「水の流れ」に関する諸問題はつながっている。「水の流れを見ることが間違いないことになる」と著者が投げかけるように、本書を通じて、水に関する問題に無関係な人はいないということがある。
本書は読者が水に関する問題の幅広さを知ることが出来る。全ての人に読んでほしい一冊だ。



図解 地方公営企業のしくみ
吉岡 律司 著
地方公共団体が行う活動は、一般行政活動、企業活動、収益事業活動に別される。一般行政活動は、道路整備、学校、保育所、警察、消防といった、その効率が特定の個人に止まらない活動で、財源は租税で賄われる。企業活動は、上下水道、バス、鉄道、電気、ガスといったその効率が利用者個人にとどまる活動で、受益者負担の考え方により、財源は料金等によって賄われる。収益事業活動は、実施する事業に要する経費の一部を賄うため、公的機関が例外的に収益を目的として行う活動で、競馬、競輪、競艇などの公営競技がこれに当てはまる。
上下水道部局をはじめ、企業活動を行う公営企業には、管理者制度や公営企業法などの一般行政部局とは異なる制度が存在している。本書では、若手県庁で公営企業に在籍していた著者が、その特徴について図画を用いながら分かりやすく説明。また公営企業職員が持つべき心構えなどもコラム形式で掲載している。地方公共団体を公営企業に従事している人や、そんな公営企業と関係を持つ民間企業への就職を志望している人には、ぜひ手に取ってほしい一冊である。



水道事業の理解を促進
トコトンやさしい 水道の本 第2版
高堂 彰 著
本書は、全ての人が簡単に分かるように、水道(上下水道)と水道事業について紹介している。水道の歴史や仕組み、施設やさまざまな技術等をイラストや図表を交えて解説しており、水道業界に興味を持つ方には特におすすみ。
第1章「水道のしくみ」では、江戸時代から現在までの歴史を振り返り、当時の技術の高さを分かってもらうことができる。第2章「水道のしくみ」では、水源から浄水場までの浄水工程、配水管網の敷設、浄水場における浄水の処理の仕組みや配水池の役割等の基礎を学ぶことができる。また、老朽化の進行といった日本の水道が抱える課題や将来にわたる水の安全供給を行うべく改正された水道法の内容等を詳しく解説している。
第6章においては「水道まめ知識」と題し、ミネラルウォーターの種類、軟水硬水の違いなど、思わず手に取ってみたい内容を紹介している。
また、本書では、水道料金の計算方法や硬質プラスタック管や軟質プラスチック管といった、配水管や給水管の種類のほか、耐震化等の水道施設における地震対策等、約70項目にわたって、解説がされており、自分が知りたい内容を探しやすいという特徴となっている。
本書を通じて、より多くの人に水資源の大切さを知ってほしい。



絵本で学ぶ水循環は
みずは、どこから? 文・近江 瞬 絵・佐藤 優花
われわれが使う水はどこから来るのか。そして使った水はどこへ行くのか。この根源的な疑問を、やさしいタッチでデザインと空間のプロセスを辿りながら解き明かす絵本「みずは、どこから?」(写真、文)近江瞬、(絵)佐藤優花、(巻頭)同書は、上下水道施設の維持管理・建設・推進、施設の販売などを手掛ける「イー・ケー・エス」本社(石巻市)が発行したもので、文には、浄水場や水処理場を含めた水循環を想起させる物語。上下水道への理解や関心を深めるストーリーを踏まえて、身の回りの水について調べて記入したり、過渡期方法を紹介するワークシートページも掲載している。
末尾に書かれた「当たり前にあきらめない水が、当たり前であり続けるために、水を使いたい使いたいということが先も当たり前でありたい」という水に関わる人たちの願いもある。同書は一部を書店で販売し(部数限定)、売上を水源保全のために寄付するなど、地域貢献にもつなげている。

水の流れに着目する 水がなくなる日

橋本 淳司 著

図解よくわかる地方公営企業のしくみ

吉岡 律司 著

水道事業の理解を促進 トコトンやさしい 水道の本 第2版

高堂 彰 著

絵本で学ぶ水循環は みずは、どこから?

文・近江 瞬 絵・佐藤 優花

水を学ぶ 就活生に読んでほしい水の書籍



人事／採用担当者に聞く

(写真右から)

- 管理グループ総務部 採用担当部長 福岡 慎次さん
- 管理グループ総務部 課長 本村 龍裕さん
- 管路グループ企画部 森 早紀さん
- 管路グループ企画部 青柳 香菜里さん

未来を拓く「まちのお医者さん」

■安心安全を支えて
当社は、1958年に設立されたインフラメンテナンスの3本柱を基本としています。事業は、地震改良・斜面防災・管路メンテナンスの分野で大きく成長しています。創立当初は建設現場の波に乗り、地盤改良の分野で拡大してきました。その後、下水道管の維持管理の必要性を見出し、管路メンテナンス事業へと進出しました。現在は、アインシャベットの管路洗浄や、衛星を活用した漏水調査、AI分析を用いた管線更新計画策定支援といった水道分野へも展開しています。そんな当社

■挑戦と成長の企業風土
当社が企業として成長を続けられている理由は、先人たちが築いてきた種があり、その数々の種が一つずつ花開き、現在に至ります。ヨーロッパから取り入れた技術は、下水道管生技術のシェアNo.1となり、ますます販路を拡大しています。

■第三者評価を大切に
当社は、昨年度に第25回日本水質協会「水インフラ」を授賞し、水インフラに対する技術・担い手を盛り上げる記念日活拡大に必要と、自社「動が経済産業大臣賞」の技術開発拠点に授賞して、さらなる躍進を目指しています。水インフラを支え、水循環の健全化に大きく貢献しています。

■キャリア自律で描く未来
当社は毎年、総合職5~10人程度の採用を予定しています。オンライン



「働き方改革」座談会



東亜クラウト工業 YouTubeチャンネル

東亜クラウト工業

当社の「ま」を知ってほしい

ンや対面の説明会のほか、8月からオープンカンパニーも実施予定です。

チャレンジの中に、チェンジがある。

CHALLENGE

Challenge to change.

通称ドラマ小説 くりもとさん

KURIMOTO

https://www.kurimoto.co.jp/

1941 WATER PIPELINE

TAISEI KIKO

JAPAN OSAI

PERFECT SOLUTION TO STOP THE FLOW OF WATER TEMPORARILY

STOPPER

CREATE BYPASS

TEMPORAR VALVE

YANO-STOPPER

TF-80

TYPE: W 75~1000

https://www.taiseikiko.com/

水道管路機器のバイオニア、不断水の

KEEP THE LIFE LINE

TAISEI KIKO 大成機工株式会社

www.taiseikiko.com

本社/大阪市北区梅田1丁目1番3-2700 TEL.06(6344)7771(大代表)